

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第65号

発行:2018年12月4日  
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
〒739-0147 副住職 天野英昭  
東広島市八本松西6丁目10番1号  
TEL・FAX 082-428-1360

## 除夜会並びに元旦会

日 時 12月31日(月) 23:30~24:30頃

場 所 天龍寺 本堂

## 御正忌(おたんや)法座

日 時 1月23日(水)

ご講師 松林 行圓師(安芸高田市 善立寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

## 第86回 歎異抄輪読会のご案内

日 時 12月20日(木) 19:00~20:30頃

場 所 天龍寺本堂

講 師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

お詫びを申し上げます。

先般の寺報「無碍の一道 64号」にて、私の健康状態・血液検査結果等に関しまして、多くの方にご心配をおかけしました事、書面を借りましてお詫び申し上げるしだいです。

原因は投薬が自分の身体に合っていなかった為に通常値よりも多い結果が出た事であります。よってこの点に関しましては、なんら異常がない事をご報告申し上げます。

重ねて多くの方々にご配慮・ご心配をいただきました事、厚く感謝申し上げます。

## 還暦を過ぎしみじみ感じる事です。（Ⅱ）

『心を弘誓の仏地に立て、念を難思の法海に流され・・・』の如く、常日頃のご教示のお言葉をお借りすれば、注) 1 『主体の確立』と申しましょうか、健康・家族・財産等、いとも簡単に崩れ去っていく物に立脚するのではなく、絶対の世界、大いなる世界に立脚し、喜び・悲しみ・苦しみ等、全てのご縁を南名阿弥陀仏のご縁として、自らのこの境涯の業として、宿命として、仏道の糧として粛々と受け止めながらの人生を歩むことが出来ればと思う事もありますが、自らを善しと思い、自らを頼みにしながら歩んでいる自分でもあります。

また、勝った・負けた・得した・損をした、役に立つ・役に立たなかった、等と比較の世界における迷いに翻弄され続け、限りのある世界に生きているために歳を重ねれば「膝が痛い、腰が痛い、手があがらなくなった、目が見えにくくなった、耳が聞こえにくくなった。」等と不平・不満・愚痴を繰り返しながらの人生を歩み、気がつけば自らの人生の終焉を迎える存在であると痛感することあります。

最後に、半年前に百歳近いある奥様が「人生どこまでいっても楽にならんのじゃ。それが人生よ。」と言われ、深く納得したことあります。お釈迦様のお言葉ではありませんが、この世は自分の思い通りにならない世の中であり、よってこの一度の娑婆の人生を苦しみとお示しくださいました。還暦を過ぎ、この点も私なりに実感している事でもあります。

これまで生きて来た人生を歩むことが出ない私にとって死は目の前の事と感じる事もあります。ある方が「死を往生に更えることによってのみ死の解決がある。」と書かれてありました。まったくその通りであると思います。

「無碍の一道」に表現される悠々とした人生を歩むことは、私には遠い世界の事だと思っております。しかしながら私なりの往生浄土への道をお念佛と共にみなさま共々歩むことが出来ればありがたいと存じます。

### 天龍寺報恩講・永代経法座のお礼

先般、11月16日（金）に当山に置きました報恩講・永代経法座を執り行う事が出来ました。前日から、近隣の方々、天龍寺佛教婦人会の方々、天龍寺佛教壯年会の方々には、ご多忙の中2日間に渡ってお手伝い・ご協力・ご尽力等を賜りましたこと厚くお礼を申し上げる事であります。

また、当日は天龍寺本堂に多くの方々が、遠近各地からご参詣をいただきました事に対しても、厚くお礼を申し上げるしだいです。

来年は、元号も変わりどの様な年になっているか分かりませんが、本年度と同様にみなさまのご協力・ご尽力・ご支援等を賜りながら、次世代に浄土真宗のご法儀が、継承されるように当山としまして努めていけたらと思っております。

最後に、これからもみなさま共々、お念佛と共に人生を歩むことが出来ればありがたいと存じます。